



おうめしろばら

第18号 令和5年3月

青梅市の有権者数：男 56,427人

発行：青梅市明るい選挙推進協議会

女 55,885人

青梅市選挙管理委員会

合計112,312人

TEL 0428-22-1111(代)

(令和4年12月1日現在)

★令和4年度明るい選挙ポスターコンクール 青梅市審査賞★

小学生の部



青梅市立今井小学校
関 愛香音さん (6年)



青梅市立第三小学校
乙訓 惟莉さん (3年)



青梅市立第五小学校
福田 莉世さん (6年)

令和4年度明るい選挙ポスターコンクールは、小学生の部84点、中学生の部78点、合計162点の応募があり、その中から6名の作品が青梅市審査賞に選ばれました。

また、「青梅市立今井小学校」と「青梅市立西中学校」が、東京都から感謝状贈呈校に選ばれました。

今年も
たくさんの応募を
お待ちしております！



青梅市立新町中学校
松永 暁季美さん (2年)



青梅市立西中学校
望月 果歩さん (2年)



青梅市立西中学校
久保田 暖瀬さん (2年)

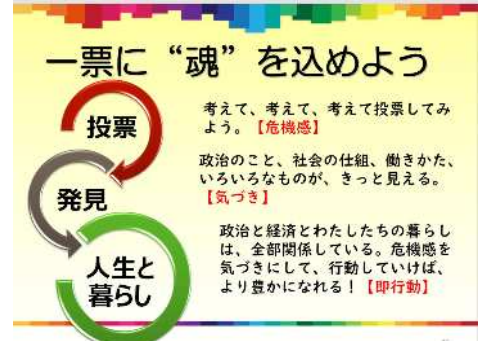
中学生の部



出前講座 「選挙のはなし～届け、魂の一票」

令和4年11月22日（火）都立青梅総合高校において、新有権者となる高校3年生（約220名）を対象に出前事業を実施。

若年層への啓発
出前講座と共に
模擬選挙も実施！



出前講座受講後の
感想!



改めて選挙の大切
さがわかった。



1票の重みを知ったのでこれ
からも選挙に参加したい。

自分がまだ選挙についてあまり
知らないことに気づいたので、
もっと学ぼうと思った



選挙について詳しく知れたの
で18歳になって初めて選挙に
行く時に、この知識を役立て
ようと思った。

若者のための制度を作る
ためには若者が選挙
に参加しなければいけ
ないこと

18歳になった私たちにできるこ
とはまだたくさんある、選挙はそ
の中で一番特殊で人生に影響す
ること。



立会人を経験して

「1票を支える人々」

鈴木 重一

選挙に初めて立会人として参加し朝6時に投票所に行きましたが、もう職員の方が準備をしていました。7時に投票が開始され、13時間投票が続きます。職員の方はコロナ対策をしながら高齢者の方や車椅子の方にきめ細やかに投票を手助けしていました。午後気温が30度を超え、熱中症の危険も出ましたが、水分をとり頑張っていました。20時の終了がきて開票所へ無事投票箱を届け、私の一日が終わりました。しかし、開票所は夜通し作業が続くのでしよう。今迄何気なく1票を投票していましたが、その1票を多くの人を支えていて下さったのが分かりました。



明るい選挙推進運動

功労者表彰!

長年にわたる明るい選挙推進活動への功績を称える明るい選挙推進運動永年功労者表彰が今年度も行われました。

青梅市からは2名の青梅市明るい選挙推進委員の方が10年、20年それぞれに該当したため表彰されました。



● 表彰者（敬称略） ●

永年功労者表彰（10年）

東青梅地区

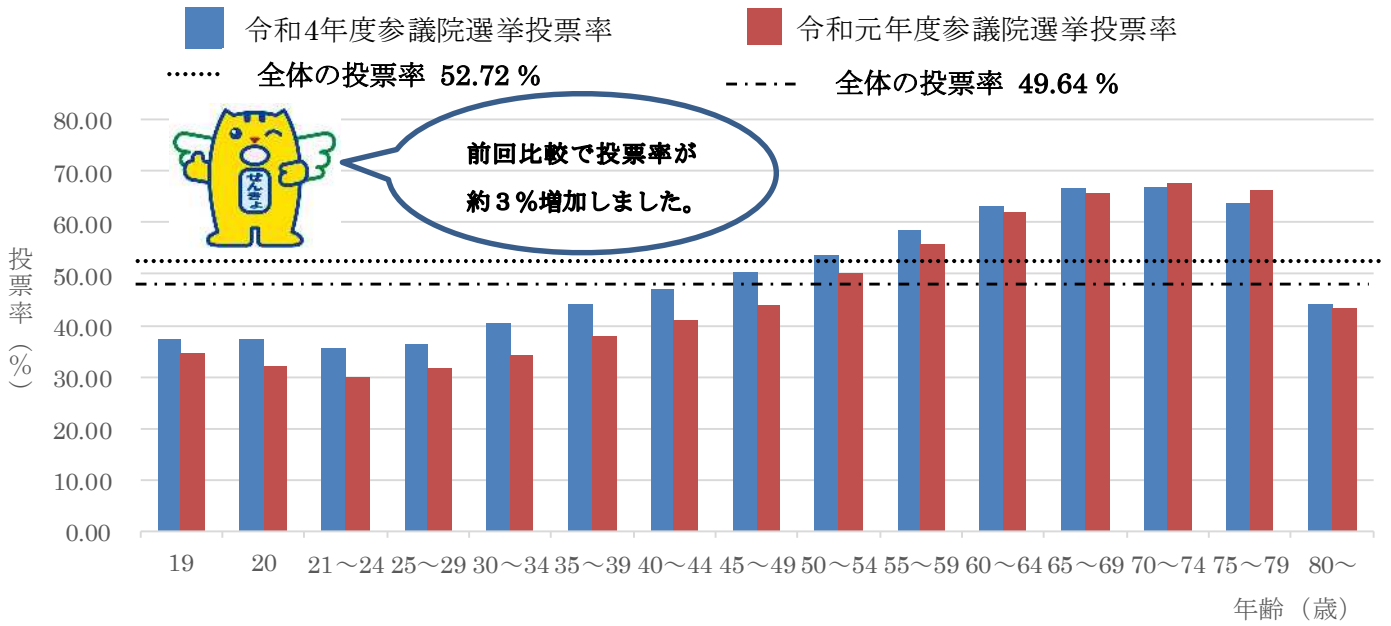
濱中 貢一

永年功労者表彰（20年）

東青梅地区

須崎 イセ

参議院議員選挙 年代別投票率



選挙イヤーに向けて

衆院選における「一票の格差」の是正に向けての公職選挙法の改正が、紆余曲折を経て、漸く昨年暮れに施行されました事は、大変喜ばしい事であります。

さて、最近「公職選挙法に抵触する」との記事を良く目にします。自治体、国、家のかじ取り役を担う議員の皆様には、常に襟を正し、コンプライアンスに沿った活動を展開して頂きたいと感じるところです。

当市では、本年度、春には市議会議員選挙、秋には市長選挙が執行されます。

四市共催明るい選挙

推進委員研修会の歴史

令和四年度に「四市共催明るい選挙推進委員研修会」に青梅市も参加し、五市共催の研修会となりました。今年度開催された内容につきましては4ページの記事を掲載していますので、ご一読頂ければと思います。新型コロナの影響もあり、参加人数が小人数に限られてしまったのは少し残念でした。

さて、五市共催となる以前の四市共催に至る歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。昭和五十四年から五十六年ま



選挙管理委員会

委員長 川鍋 信夫

ラグビースピリットを借用するようですが、明推協の皆様とは、不偏不党の立場に立ち、より公正な選挙を目指し、タッグを組み一歩前へを合言葉に臨んで行きたいとさせていただきます。



明るい選挙推進協議会

会長 坂口 芳文

で福生市と昭島市共同で二市共催が始まったのが、原点のようです。

昭和五十七年に市制となった秋川市が加わり、福生・昭島・秋川市で三市共催となりました。

平成四年に三年に市制となった羽村市が加わり、四市体制となりましたが、平成七年に秋川市と五日市町が合併し、あきる野市が誕生し、最終的な四市共催の形態が整ったようです。

今年、令和5年においては、

令和5年4月23日 青梅市議会議員

令和5年11月12日 青梅市長選挙

いよいよ
地方選挙の年!



どちらも青梅市として、とても重要な選挙となっています。皆さんの一票をお待ちしています。

5市共催明るい選挙

推進員研修会

令和4年度より昭島市・福生市・羽村市・あきる野市の4市で開催されていた明るい選挙推進委員研修会に青梅市も参加させていただき、5市での開催となりました。

今回の研修会は、杏林大学総合政策学部小暮健太郎教授による「杏林大学における若年層への啓発活動について」を題材に実際に杏林大学で行われている啓発活動等をお話しいただきました。講演会では小暮教授の研究室に所属する学生さんが3名も参加してくださり、普段なかなか聞くことができませんでした。

青梅市からも20名の明るい選挙推進委員さんらが参加!!



編集後記

COVID-19と命名されたコロナは今だに衰えることなく変異に変異を重ね、感染の脅威は今も残り続けています。しかし、出現当時あれほど充満していた畏怖感も今は薄れ、過去の社会生活を取り戻す動きに舵がきられ始めています。さてその中で、本年は統一地方選挙の年に当たり、我々の生活に今後身近となる諸氏に新たな4年間を託す選挙年となります。周知のとおり、18歳から投票権が付与され、一部成人の扱いをも受けるようにもなりました。しかし、若年齢層の投票率はどの選挙においても低空飛行が現状です。年齢という集団で考えれば若年齢層のもつ意見はそれだけで意義を持つはずですが。周囲に少しでも関わりあう意識を投票に生かしてもらえば、偏りのない社会を築いていけるのではないのでしょうか。



しるばら編集委員

青梅地区	並木 明
長淵地区	中村 佐内
梅郷地区	岩田 賢治
沢井地区	堀 美江
小曾木地区	吉崎 光一
成木地区	小山 結花里
東青梅地区	立川 勝己
新町地区	菊地 拓也
河辺地区	仲條 年春
藤橋・今井地区	吉田 昌之
太字は編集委員長	

